

対話イン京都女子大 2012 報告書

針山日出夫

石井正則

1. 経緯と目的

本年 5 月 20 日、京都大学にて「NPO あいんしゅたいん」等が原子力討論会を開催、この討論会に金氏氏が参加し講演を行った。その際、討論会に参加した京都女子大学現代社会学部・水野教授より京都女子大でシニアと対話会開催の意向を伺い、今回のイベントが実現した。

この対話会は、エネルギー問題・原発問題・放射能問題などを大学に於ける「環境科学概論」の延長線上の命題として捉えたものである。この目的にそって、日本国民の最大関心事となった「原子力の安全性、エネルギー戦略における原子力の将来の位置づけ」について問題点を分析的の把握し、対策系のあり方を体系的に考える上での参考にしてもらうことをねらいとした。

なお「環境科学概論」延長線上ということから、大学教員要請に応える出前授業の性格をもち、学内で承認を得たものであり、実施内容も教員および学生の意向のそったものとした。

2. 対話会の概要

- 1) 日時 平成 24 年 7 月 14 日 (土) 13 時～17 時 50 分
- 2) 場所 京都女子大学 東山キャンパス S 校舎 207 教室
- 3) 参加者 学生 9 名 (京都女子大生 6、京都大生 3)
先生 1 名 (京都女子大・現代社会学部 水野義之教授)
オブザーバー 2 名 (NPO あいんしゅたいん くさ場、宇野)
SNW (石井正則、橋場隆、路次安憲、針山日出夫)
- 4) 配布資料 ① 福島事故を踏まえた放射線・放射能とエネルギー問題
(2012/7/14 石井正則)
② 原子力コンセンサス 2012 (電気事業連合会)
③ 暮らしの中のエネルギー 2010-2011 版
(「フォーラム・エネルギーを考える会」事務局)
- 5) プログラム
13:00～ 開会挨拶 (水野教授)
13:10～ 自己紹介 (参加者全員)
13:30～ 基調講演「福島事故を踏まえた放射線・放射能とエネルギー問題」
(約 1 時間、石井正則)

① 事故概要

—事故を起こした福島第一 1～4 とその理由

—事故を起こさなかった発電所とその理由

② 原発安全対策の実態と事故への対応策

③ 放射線と放射能 健康影響・除染・風評被害

④ これからの賢いエネルギー選択

14：40～ グループ対話（2時間、全員が2グループに分かれ対話）

16：50～ 意見・感想の発表（参加者全員が一人2分程度で発表）

17：40～ 閉会挨拶（水野教授） 写真撮影

この後、希望者 10 名で教室内での懇親会を実施し、19 時 50 分に解散。

3. 対話会の概要

去る 5 月 20 日、京都での原子力討論会の場で水野・金氏両氏の出会いが契機となり京都女子大での初めての対話イベントが実現した。学生達のエネルギー問題に対する姿勢は真剣そのものであり、双方にとって実りある対話であった。学生達全員が「責任ある発言」を心掛けており、どうすれば日本は原発賛成・原発反対の二項対立から脱却できるかについても活発な意見を出していた。

4. アンケート結果に概要と成果

対話終了後、対話参加学生 9 名全員からアンケートの回答を得た。

対話、講演とも「ある程度満足」を含めさ、参加者全員から満足との回答を得た。また、聞きたいことが聞けたか？対話の必要性、今後の参加希望からも満足を得たとの意向が伺える。

一方、エネルギー危機意識、原子力のイメージについては全員が「多少変化」「あまり変化無」であった。時期的に大飯原発再稼働と重なり、再稼働が話題になっていたが、大飯再稼働では全員が賛成若しくは「止むを得ない」、「再稼働」全般に対しては、「賛成」「やむを得ない」のほか「どちらとも言えない」が 11%であった。いずれも「すべきでない」はゼロであった。

なお、事前アンケートでも原子力利用に関し約 3 割が「利用すべき」、7 割が「どちらとも言えない」で、「利用すべきでない」はゼロであった。

全般的に好意的でまた原子力に前向きにとらえた回答といえる。これらのことから、授業や福島事故後のボランティア対応などによる学生の関心と意識の高さが伺われた。同時に対話では積極的な参加意欲も感じられ、心強く感じられた。

これには京都女子大の学生のみならず京都大学の学生に参加を得たことも、よい刺激になったものと思う。さらに「NPO 法人あいんしゅたい」の宇野賀津子、艸野よしみ両氏の

に参加いただいたことも、対話を活発にし、有意義なものとすることができた。

5. おわりに

参加いただいた京都女子大の学生および京大から参加の学生の皆様に厚くお礼申し上げます。

対話を盛り上げていただいた「あいんしゅたい」の皆様からは、私たちシニアも学ぶところが多くありました。今回の対話会に大きな貢献をしていき、厚くお礼申し上げるとともに、今後も引き続き協力いただければと思います。

また、主催されから水野先生には先生の幅広いチャネルを活用、大変ユニークで有意義な対話会となったことに厚くお礼申し上げます。

以上

添付資料 対話後のアンケート結果

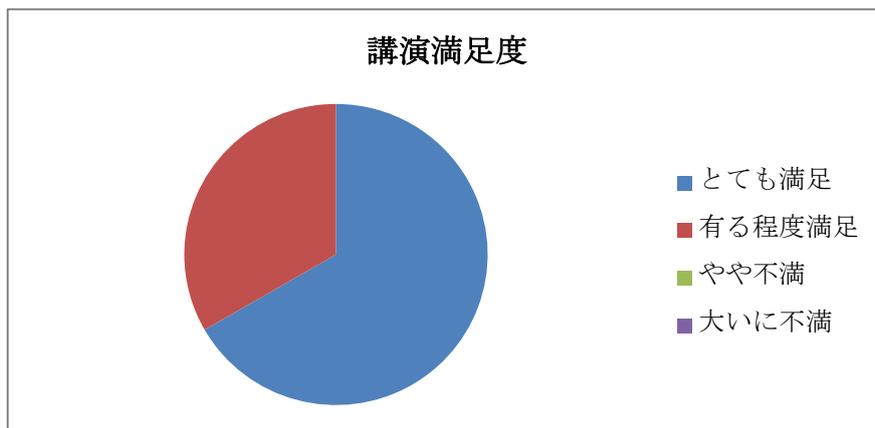
添付資料 対話後のアンケート結果

アンケート回答者：9名（参加学生全員）

【答項目毎の数値は、当該回答者人数を示す】

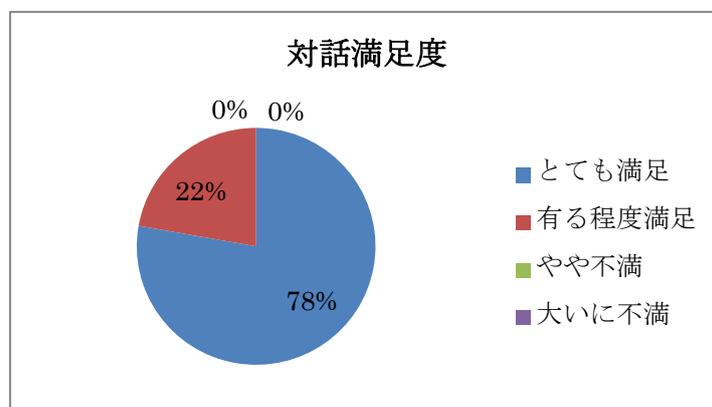
(1) 講演内容満足度

とても満足 6、ある程度満足 3、やや不満 0、大いに不満 0



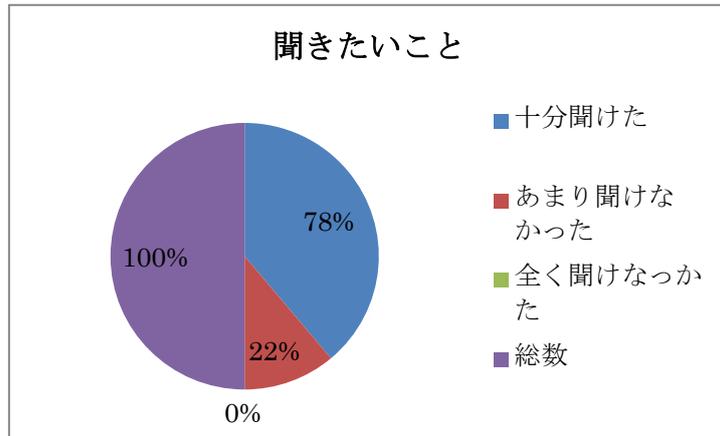
(2) 対話内容満足度

とても満足 7、ある程度満足 2、やや不満 0、大いに不満 0



(3) 事前に聞きたいことが聞けたか

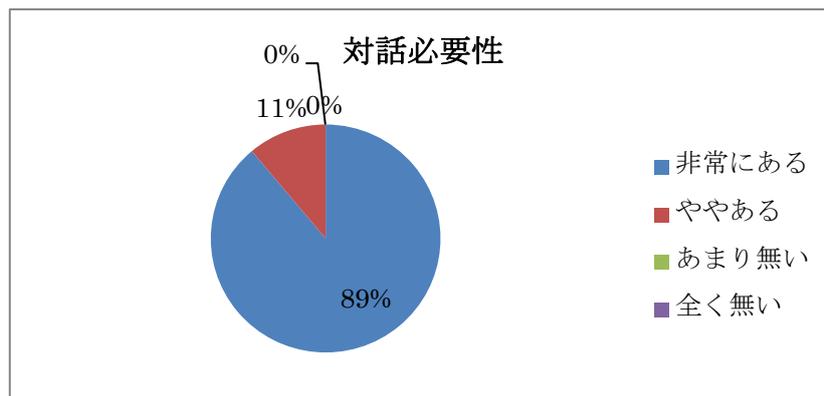
十分聞けた 7、あまり聞けなかった 2、全く聞けなかった 0



(4) 対話で得られたことは何か？（本質門は記述式につき後記参照）

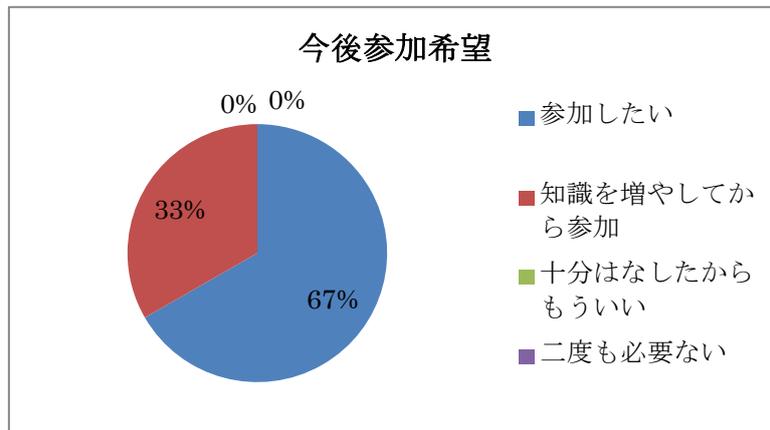
(5) 学生とシニアの対話の必要性

非常にある 8、ややある 1、あまり無い 0、全く無い 0



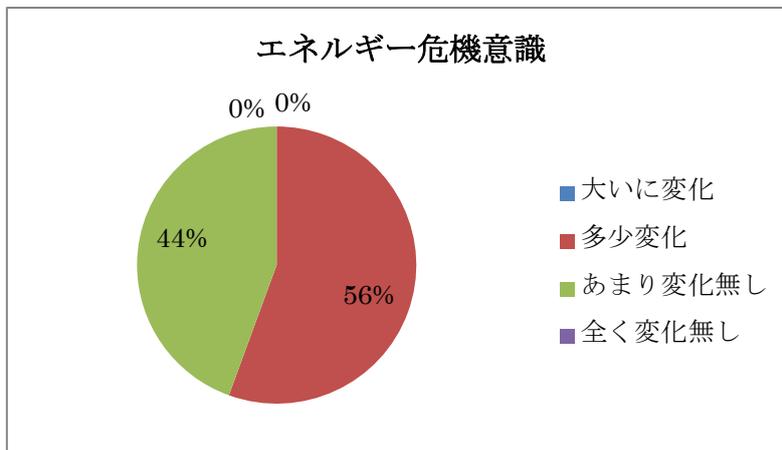
(6) 今後、機会あればシニアとの対話に参加するか

話し足りぬので参加したい 6、知識を増やし参加したい 3
 十分話したからもういい 0、二度も必要ない 0



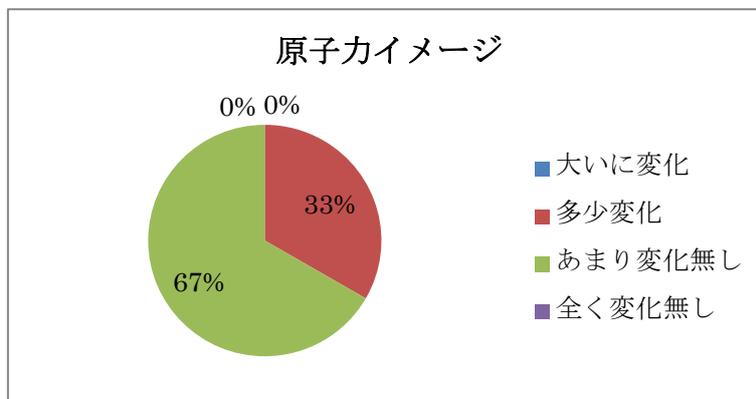
(7) エネルギー危機に対する認識変化

大いに変化 0、多少変化した 5、あまり変化なし 4、全く変化なし 0



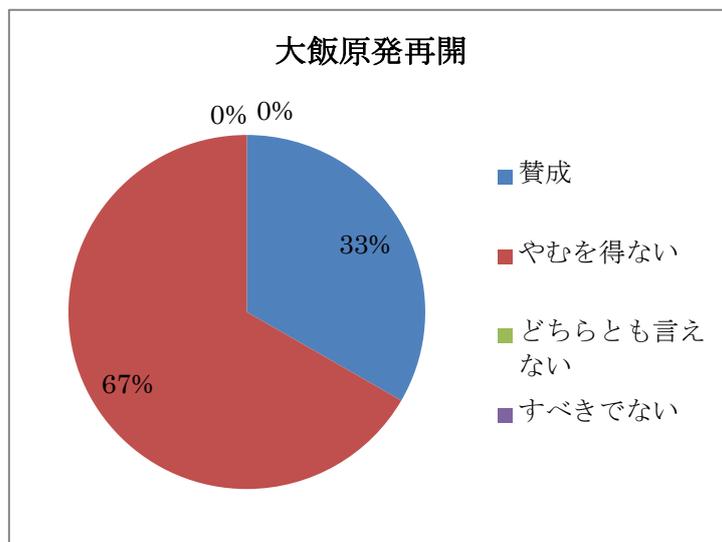
(8) 原子力に対するイメージ変化

大いに変化 0、多少変化した 3、あまり変化なし 6、全く変化なし 0



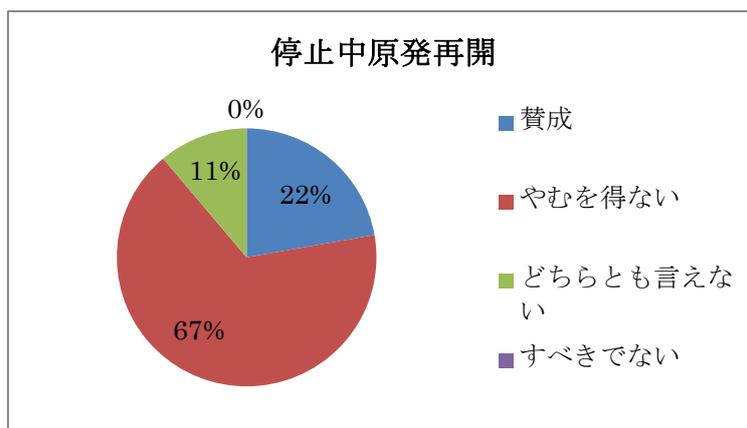
(9) 大飯原子力発電所の再稼働について

賛成 3、 再稼動やむを得ない 6、 どちらともいえない 0、 すべきでない 0



(10) 停止中の原発の再稼動

賛成 2、 再稼動やむを得ない 6、 どちらともいえない 1、 すべきでない 0

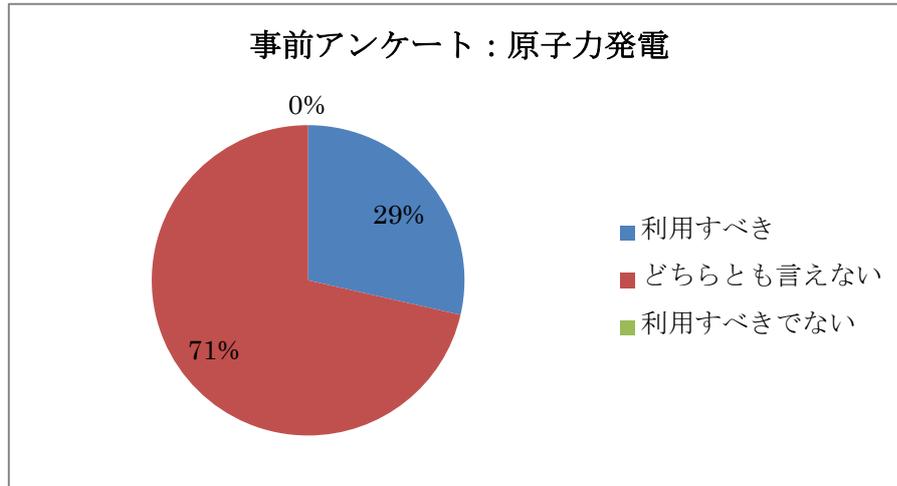


(11) 感想などの自由記述（後記参照）

<補足情報>

参加9学生のうち、7名が事前アンケートを提出。原子力発電の利用についての意見は以下のとおり。

利用すべき 2、 どちらともいえない 5、 利用すべきでない 0



【シニアとの対話で得られたこと】

- － 知りたかったことを聞いた
- － 問題に関わる全体像を把握することの大切さを知った
- － 双方向の信頼が大切であることを再認識した
- － 正しいことを正しく伝えることの大切さを知った
- － 放射線教育の在り方について深く考えさせられた
- － 社会的見地からの意見を理解できた
- － 普段は会えない人の話を聞いて、又、自分の意見を聞いてもらった
- － きちんと知っておくべきことを習得できた
- － 自分自身の原発問題に対するこれまでの無知を認識した
- － 東電福島原発事故にもっと踏み込んでいく意欲が湧いて来た
- － 原子力を多様な視点で考えることの重要性を学んだ
- － 国民一人一人がメディアや先入観にとらわれないことの大切さを知った

【本日の感想等の自由記述】

- － このような充実した機会を与えていただいたことに感謝
- － 対話のトピックスを絞り込んでも良かったのではないか
- － 原子力問題、放射線安全について理解を深めることが出来満足
- － 自分とは異なる意見を聞け、学べたことは新鮮であった
- － 世の中の意見は客観的でない極端な意見であることを認識。やはり正しい知識を身につけることが大切。
- － 本日吸収したことをベースに更に学んで情報を発信していきたい
- － 対話の時間がもっと欲しかった
- － 日本のエネルギー問題と向き合ってきた人達の肉声の話しが聞いて満足